第１部パネル　分科会 7

# 地縁の助け合い活動を活性化するには？

## 提言

**日頃のつながりが、全ての助け合いの基礎。**
**顔の見える関係をはぐくみ、**
**自分事として**
**助け合える地域にしていきましょう。**

### 登壇者

【進行役】

| | |
|---|---|
| 岡野　貴代 | (公財) さわやか福祉財団 |
| 髙橋　由和氏 | (特非) きらりよしじまネットワーク事務局長 |
| 細貝　光義氏 | (特非) 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会会長 |
| 小林　孝氏 | コープ南砂助け合いの会事務局長 |
| 初田　隆史氏 | 若葉台自治会長・宇治市第１層協議体委員長 |
| 内鏡原　勇氏 | 鹿屋市高齢福祉課 |
| 穂園　裕治氏 | 鹿屋市第２層ＳＣ |

### ■ 寄せられた声から

●高齢＋子どもを地域で支える活動以外に障がい者への支え合いがあるのかを聞きたかった。

## 議事要旨　岡野 貴代

安心して住み慣れた地域で暮らしていくためには、身近な地域での助け合いは欠かせないが、地縁で生活支援などの助け合いまで行うことの難しさを感じている方も多いのではないだろうか。そこで、当分科会では、地縁で生活支援も含めた助け合いを実践している５つの地域からパネリストをお呼びし、実践者からヒントを持ち帰り、各自の地域で地縁の助け合い活動を広めることを目的に開催した。

東京都江東区コープ南砂助け合いの会事務局長小林孝氏からは、地縁のつながりが薄いといわれる都心部でありながら顔の見える関係性をどのように構築してきたのかをうかがった。

鹿児島県鹿屋市保健福祉部高齢福祉課地域包括ケア推進係内鏡原勇氏、鹿屋市第２層ＳＣ穂園裕治氏には、住民に働きかける側として登壇していただき、町内会主体の有償ボランティアの立ち上げについて、支援する側としての報告を聞かせていただいた。

京都府宇治市若葉台自治会長初田隆史氏からは、自治会活動を活性化し、自治会主催でサロンや生活支援など様々な活動を実践している様子をうかがった。

山形県川西町吉島地区ＮＰＯ法人きらりよしじまネットワーク事務局長髙橋由和氏からは、吉島地区全世帯が加入したＮＰＯ法人を立ち上げ、計画づくりにはワークショップによる住民の意見を反映するなど、住民の合意形成を大切にした地域づくりについてうかがった。

埼玉県鶴ヶ島市ＮＰＯ法人鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会会長細貝光義氏からは、地域合同防災訓練をきっかけに、地域の多様なニーズに応えるため鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会を設立し、防災に加え高齢者福祉、子ども育成などの活動を拡大し、ＮＰＯ法人化するまでに至る活発な住民主体活動を実践している様子をうかがった。

後半では、テーマ１「自治会が助け合いの生活支援まで行うにはどうしたらよいか」、テーマ２「地縁での助け合いの生活支援に多くの住民が参加するよう住民意識を高めるにはどうしたらよいか」について各パネリストと議論を深めた。

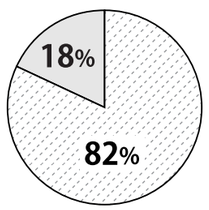
テーマ１は、「会員制の互助組織を設立する」「自治会の活性化」といった方法論や、「思いをつなぐ」「根気強く前向きに」「気負いすぎない」「全部自分事」といったキーワードがあげられた。その根底には、共通項としてあげられた「日常的なつながり」が必要で、つながりがお互いの信頼関係をつくり助け合いに発展するという。

テーマ２では、「情報発信」と「継続的な活動」で住民に活動が認知され、その活動に「役割や出番をつくる」ことで住民が意欲的に参加するようになり、活動を通して地域で受け入れられることで、地域の困りごとを「自分事」として受け止め行動につながるということがわかった。

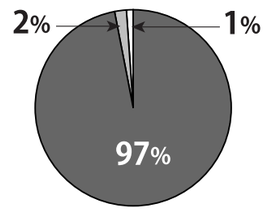
各パネリストの貴重で実践的な発言をまとめ、当分科会の地縁の助け合いを広めるための提言とした。多くの示唆に富むヒントをいただくことのできた分科会であった。

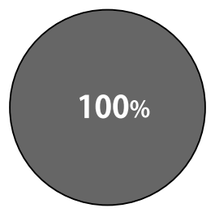
### アンケートの結果　参加者概数：178名　回答者数：137名

回答者の所属先




助け合い活動をすすめる立場の方




その他の方